

技術情報

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員  
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年は小麦、大麦とも出穂期が平年より早くなっており、麦類赤かび病の防除は平年より早く実施する必要があります。

赤かび粒が混入している麦類は規格外となります。下記に留意し、防除対策指導の徹底をお願いします。

1 作物名 麦類

2 病虫害名 赤かび病

3 麦類の生育状況

麦類の生育が早く、出穂期は小麦、大麦ともに平年より5～12日程度早い。

農業総合試験場における作況調査

品種	播種日	本年 出穂期	平年比	前年比
シロガネコムギ	11月20日	4月1日	-9日	-14日
チクゴイズミ	11月21日	4月3日	-9日	-16日
ニシノチカラ	11月24日	3月31日	-5日	-13日
ほうしゅん	11月24日	4月1日	-12日	-17日
アサカゴールド	11月24日	4月3日	-8日	-18日

4 防除上注意すべき事項

(1) 出穂期から開花最盛期に曇雨天が続き、比較的暖かいと発生が多くなる。

3月下旬以降の気温はかなり高く降水量も多く、今後1か月の気象予報においても気温は高く、降水量は平年並とされている。天候は周期的に変化すると予想されているため、出穂期以降の気象に十分注意する。

(2) 防除適期は、小麦では出穂後7～10日頃の開花期、大麦では出穂後1～4日頃の穂揃い期(ほ場の約80%の茎が出穂した時期)である。

防除適期を失すると防除効果が低下するので、各ほ場の生育状況の把握に努める。

(3) 降雨や曇天が続き多発が予想される場合は、1週間後にもう一度2回目の防除を行う。

- ( 4 ) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後 6 時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が落ちるため、天候に留意する。
- ( 5 ) 防除薬剤は「平成 1 9 年度普通作病虫害・雑草防除の手引き」を参照する。  
なお、チオファネートメチル剤は平成 1 7 年 1 0 月 1 9 日付けで農薬登録内容が変更され、出穂期以降は 1 回しか使用できないので注意する。
- ( 6 ) 農薬散布時には、農薬の使用基準を遵守するとともに、飛散防止対策を徹底する。

## 5 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は 0.0% である（赤かび病被害粒が 0.05% 以上混入している麦類は規格外となる）。また、小麦粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は 1.1ppm で、これを超える小麦は流通できない。